

収蔵品紹介

- 明治 27 年 岐阜県土岐郡多治見町(現多治見市)で父梅次郎、母なべの一人息子として生まれる。
- 明治 44 年 叔父虎次郎の次女、志づと結婚。
- 大正 11 年 京都市、宮永東山窯に工場長として勤める。
- 大正 14 年 可見郡久々利村(現可見市)大平の古窯跡で天目、古瀬戸片採集、帰途路上で青織部片を拾う。
この年小山富士夫、北大路魯山人と出会う。
- 昭和 2 年 鎌倉に北大路魯山人築窯。
望まれて鎌倉山崎の星岡窯に移る。
- 昭和 5 年 名古屋関戸家所蔵の志野筍絵茶碗と同じ筍絵文様の陶片を、当地久々利大萱牟田洞の古窯跡で発見。
志野などが愛知県瀬戸市で焼かれていたという日本の陶磁器史の定説を覆す大発見であった。これ以後、豊蔵は志野再現を志す。
- 昭和 8 年 星岡窯から当地大萱に移り築窯。
初窯を焚く。瀬戸黒茶碗1点のみ焼成。
- 昭和 16 年 大阪梅田、阪急百貨店で初の個展を開く。
- 昭和 21 年 多治見市虎溪山永保寺所有の山を、嶋田菊僊老師より借り受け水月窯を築く。
- 昭和 30 年 重要無形文化財技術指定制度の第一次指定で、「志野・瀬戸黒」の技術保持者(いわゆる人間国宝)に認定される。
- 昭和 35 年 光悦筆宗達金銀泥鶴下絵三十六歌仙和歌巻を発見、入手。
- 昭和 46 年 文化勲章を受章、同時に文化功労者として顕彰される。
- 昭和 57 年 財団法人豊蔵資料館設立が認可される。
- 昭和 59 年 財団法人豊蔵資料館開館。
- 昭和 60 年 永眠。



展示室

荒川コレクション

当施設は、陶芸家であり、志野・瀬戸黒で国の重要無形文化財保持者に認定された故・荒川豊蔵が、自身の作品やコレクションを公開し、見識を深めていただきたいという思いから創設され、昭和59年4月より開館いたしました。その後、平成25年4月に土地・建物・収蔵品が、財団法人豊蔵資料館より可見市に寄贈され、同年10月に荒川豊蔵資料館として再オープン。平成29年4月からは、旧荒川豊蔵邸の敷地を、居宅や陶房と共に公開しています。

館の外観は蔵をイメージした白壁造り、格子は萱をデザインしています。館蔵品には、自作・自筆作品と古陶磁器、工芸、古書画、出土陶片などの荒川コレクションがあります。

荒川豊蔵の遺志を受け継ぎ、偉業を世に広めていくと共に、作品とそれを生み出した源である美濃桃山陶の聖地を多くの方に訪れていただきたいと存じます。



吉野山絵四方皿
尾形乾山 作(江戸時代)

豊蔵の創作意欲をかき立てた、古陶磁器・工芸品・絵画たちと、美濃桃山陶の再現を追求した荒川豊蔵の作品たちが織りなす極みの世界。

自作品



志野茶碗 銘「随縁」
昭和36年作



瀬戸黒金彩木葉文茶碗
昭和40年作

敷地内公開施設

- ・陶房(ロクロ場)
- ・居宅

※平成29年4月28日より



窯使用の窯(非公開)